

龍ヶ崎市_令和 7 年度「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」推進支援業務

第 2 回プロモーション分科会

時間： 2025 年 12 月 8 日（月） 13：30～15：00

場所： 龍ヶ崎市庁舎附属棟 2 階 第 1・2 会議室

事務局：スポーツ推進課、合同会社デロイトトーマツ（ファシリテーター）

<分科会参加者>

- 総務部次長
- 健康スポーツ部次長
- 都市整備部次長
- 龍ヶ崎市観光物産協会
- 関東鉄道
- 総合政策部秘書広聴課

議論事項

- プロモーション事業における令和 8 年度の目指す状態と取組について
 - 参加者）実施内容について、トップ選手の活躍の発信が新規取組に分類されているが、これまでも取り組んできているため、既存施策の強化に入れてほしい。
 - 参加者）スポーツライミングの認知を先々で 100%にするとあるが、全世代において 100%の認知ではなく、例えば対象を小学生に限定するなどはいかがか。同様に本事業の認知や事業へ関わってみたい人の割合も、達成難易度を鑑み 6 割程度で設定すべきではないか。
- 「知っているが体験したことがない」層への体験機会創出に向けた施策案出し
 - <以下意見取りまとめ>
 - 施策案について
 - ◇ 大人の体験機会として企業対抗戦の実施が考えられるが、産業祭に限らず、桜祭りなど幅広い場面での開催ができると考えている。
 - ◇ 小学校低学年よりも上の年代で体験機会をつくっていくにあたり、スポーツ少年団での対抗戦も考えられる。
 - ◇ 必ずしもクライミングである必要はなく、例えばぶら下がり時間を競うようなイベントの実施例もある。
 - 心理的なハードルについて
 - ◇ 大人の場合、挑戦して落ちたら恥ずかしいと感じる可能性がある。特に 90 度を超える傾斜への挑戦は消極的になる一方で、傾斜が緩やかな場合は梯子を上る感覚になり、心理的にもハードルは下がるという話を聞いたことがある。
 - ◇ 上に登っていくのではなく、横に動く体験であれば落ちる不安などは払しょくされるのではないか。

- 応援する機運醸成に向けた施策案出し

< 以下意見取りまとめ >

- ハード施策

- ◇ ジャングルジムの遊具前にクライミングとの親和性を示す説明書きを置くなど、日常に溶け込ませる工夫が効果的ではないか。
- ◇ 電車のつり革にホールドを用いる。
- ◇ 公園の遊具にクライミング要素を追加する。
- ◇ 応援する際に集まれるような店をつくる。

- ソフト施策

- ◇ スポーツにおいては、例えば体操などイメージソングが活用されている印象がある。
- ◇ 事業者においては、野口さんに商品を試してもらうなどが広報としては効果的だと考えている。
- ◇ 鹿島アントラーズ等、市内・県内で認知のある組織に「スポーツクライミングを応援している」といったメッセージを出してもらう。
- ◇ ファンクラブを開設する。
- ◇ 体育祭での競技種目とする。
- ◇ スポーツの普及にあたっては、大きな施策を打つよりも、いろんな所にいろんな接点をつくっていく、例えば学校でクリアファイルなどを配布するといった取組により、少しずつ刷り込んでいくことが最も重要だと考えている。

以上